臺灣日日新報
日本一流の大新聞
本社 臺北市表町二丁目二番地
新聞紙第一種 昭和五年四月十五日 第三種郵便物認可
大正十年十月十日 第三種郵便物認可
昭和五年五月五日 第三種郵便物認可
電話 代表 二八〇〇番
臺北市表町二丁目二番地
臺北市表町二丁目二番地
臺北市表町二丁目二番地

牡丹崩れず (71)

（長篇）

竹田敏彦 作
岩田専太郎 画

春を呪ふ嵐 (三)

「その時は、私……」
豊子は、遠る遠なる面を伏せた。
「どうしました。改心してはいただけませんか」
声には、強立たしに響を強ませたが、豊子は、
「ねえ、秋山さん……」
「……」
「私、どんな決心だろうて、いたしますわ。死ねと仰れれば、死ぬとだろうて、私恥しくと思ひませんうなことがあれば、母はどんなに秘しがるでせう。母の失望を考へますと、私、どうすればいいんですか……」
豊子は切なく、眼を潤ませた。
「いや、そのお気持は、よくわかります。しかし、それは一時のことですよ。二人がそこまでの恋慕つた仲をにつこり見せた。
「これで、僕を安心しました。これでも、僕の親達は、私恋と結婚に嫌いてきたのです。豊さん……」
「はい……」
素直に、あなたは、僕のものですよ。いいですね」
声は、撃を強はせて、押さへ切れない感情を、熱い眼差とともに吐く。
「豊さん……」
撃つた豊子の手を強く引き寄せた。
その時、撃子が来て、撃つたのは八時近くになつてからであつた。
「遅くなつて、済みません。今日は、大きな注文が四つもあつて……」
用務を終へる暇もなく、ぶつかりあの間の火花の前へ坐つた母の

さへ示せば、彼子は熱情に溢び、ます。それヤア、電話は小母さんも、立腹もされ、失望もされるでせうが、さうして一切の責任を負いてしまへば、小母さんに部しても、きつとあなたと撃に、それを無理だけの責任はしますよ撃すると、ただ撃を神切つて、一緒になるかならないか、撃はただその一撃です。なつてしまへば、何うにでもなるちゃありませんか。そして二人で苦行さへすれば、小母さんのお気持もだつて必ず解けます。ねえ、さう思へば、何でもないことで、ほんとにあなた撃に撃して、そこまで妹思と撃を考へてくだされば、撃に恥く考へて、苦しむほどの撃撃ぢゃないのです。まして、小母さんの長い切苦心や、それに母さんの苦心、それはよく心得てますから、その撃は十分安心してください。その撃のもとにあなたの責撃を、一切撃に任せていただきたいのです。何うでせう。それでもいけませんか」
「きつと、母のことを、忘れないでね、ね」
「僕もそれを第一に考へてます」
「それなら私、あなたの仰有る通りにいたしますわ」
「さうですか、有難……」
声には、感動に涙を詰かして、豊子の手を強くしめ、
「それでは僕も、その準備に、取りかかりますよ」
「どうぞ……」
豊子も、につこりした風で、火鉢

撃れた撃子を見ると、声と交した密約の約束を思ひ出して、何か申訳ないやうな、恥しさ寂められないでゐられなかつた。
「ねえ、お母さん……」
やつと撃子が相槌をし、撃を終つて、落胆したのを見ると、撃子は母に呼びかけたが、

海外小話

善行は善行を帰消しに

【アンカラ電報】トルコのエルジンチャン駅に駐がれてゐる二百四十一名の囚人は、今回恩赦その恩赦の五名の四を減刑される。

石油と獨、英、佛

三國合せて六千七百萬噸

戰慄する『持てる』小國群

英國は、ルーマニアの石油を手に入れ、ソ聯の石油を得て英帝国を、ゴム等を送るバーター協定を結んでいるとして居るが、それが結局英へ輸出されることを恐れて戦々恐々となる。

法律に現はれたる支那國民性

瀧川政次郎

告報地現

支那時局に直面する經濟問題

根津知好

時代の子供

坪田譲治

支那生活縦横談

吉田新七郎

春の戰鬪記

中村春雨子

花について（前線手記）

上田廣

南海線

澤村三木男

錢塘江從軍記

朱美保

銃後建設面報告記

日本留學の蘭印學生座談會

北歐戰火の經濟的考察

小島精一

北歐の回顧

市河晴子

北歐電撃作戦への疑問

池崎忠孝　山田文雄

戰歐せる局洲と極東

激化せる歐洲戰局と極東

座談會

紛糾せる蘭印を繞る列國と日本

大特号

特価五十銭

32号

土富

細工の鬼

大下宇陀兒

地上整備兵

片岡喜作

春告ぐる嵐

川口松太郎

徳川家康

鷲尾雨工

新版天下茶屋

吉川英治

鶴亀武士道

白井喬二

新政府の當面する經濟問題

支那時局に直面して

支那國民性

支那兵の現地座談會

夏場所相撲評判記

拓士の妻

竹田敏彦

愛情の權利

秋永芳郎

野良の雨風

彼の原價

ブレイン歸宅す

拔駈一萬石

名月八幡鐘

戰慄の夜

糊練り浪人

夜櫻

銃後物語

驚の故郷

田園の魂

春の戰鬪記

續・宣撫班記

春の戰鬪記

北支點描

東西漫畫

時局短評

銃眼

時局小説

時代小説

現代小説

秘話

武勇談

社會小説

世界の動向

支那新政府の巨頭

武力で戰爭に勝つ

物に對する信仰

國策完遂に協力せよ

動亂の歐洲

貴司山治

野澤純

大下字陀兒

片岡喜作

大阪商船

東亞海運

日本郵船

東京藝術社

大連汽船

辰馬汽船

辰和丸

春丸

日本郵船

大阪商船

東亞海運

神武天皇の御聖蹟更に四ケ所を決定

我等は若き兒でも空の護りに一役

臺灣航空少年團結成さる

【東京電話】（六日発）紀元二千六百年聖蹟調査委員会は十五日より各地に於て調査を進めていたが今回更に四ケ所を決定した、先に二月七日、四月二日の二回に亙り八箇所を決定し

▲端午の節句　昨日は端午の節句で各家庭では鯉のぼりを高々と空に泳がせ、菖蒲の香り高く、粽の味に舌鼓を打つ楽しい一日であった

▲樂園　所在地は臺北州新竹郡新竹街大字竹東字樂園、竹東駅より約一粁の地点にあり、樂園の名は「樂園」の意味で、竹東の人士が命名したものである

南部臺灣の名家
兄弟牆に鬩ぐ
藍家の財産爭ひ（上）
嚴父逝いて僅かに月餘

【屏東電話】藍家一族の一代始かずか？一世の英傑として鄭成功の末裔後裔の藍鼎元を出したのを皮切りに以来四十数年前藍家の盛時に於ては藍家の一族は人口四人の多きあり、故人は生前に十中歩の田畑がうと八十萬圓を超え、外に藍家として数名、有力藍家数々を合し全部百萬圓にあらうと言はれてゐる、此の百萬圓の財産は三百三十中歩の田畑を始め中村、山田醤油、各銀行重役、各藍家人、各藍家職員官吏、各藍家人、各藍家職員愛国婦人会員、小公学校、各藍家生徒、藍家家族医生徒、藍家各藍家職員等多数藍家の下に盛大に挙行された葬儀は藍家総代藍家代表藍家代表藍家代表